

高圧絶縁監視装置・工事要領書

DAS420/820 MFシリーズ



ミドリ安全株式会社

目 次

項 目	ページ
1. 目的.....	1
2. 適用機種.....	1
3. 設置工事要領手順.....	1
3-1 DAS-420MF.....	1
(1) 標準接続図.....	1
(2) 設置工事手順.....	2
(3) 本体の取付け.....	2
(4) ZCT の取付け.....	3
(5) I _o コード1とZCTの接続.....	4
(6) ZPD の取付け.....	6
(7) V _o コードとZPDの接続.....	7
(8) V _o ・I _o コードの接続.....	8
(9) 電池バックアップ.....	9
3-2 DAS-820MF.....	10
(1) 標準接続図.....	10
(2) I _o コード2とZCTの接続.....	11
(3) 拡張用I _o コードの取付け.....	13
(4) 拡張用I _o のスイッチ設定.....	14
3-3 オプション検出器の接続.....	15
(1) DAS用トランスBOX.....	15
(2) V _o 分配器.....	16
4. オプション機能.....	17
4-1 警報トリガー入力.....	17
4-2 警報接点出力.....	18
4-3 地絡抵抗R _g 出力.....	19
4-4 同期信号入力.....	19
4-5 COM-1ポート.....	20
5. 結線確認試験.....	22
5-1 ZPD・ZCT試験方法.....	22
5-2 警報接点の試験方法.....	23
6. 運用時のご注意.....	24
6-1 構内定数のリセット.....	24
6-2 時刻の確認.....	24
6-3 発報試験.....	24

高圧絶縁監視装置 DAS_Fシリーズ

工事要領書

1. 目的

本工事マニュアルは、ミドリ安全製高圧絶縁監視装置「以下、DAS という」の工事要領について適用します。

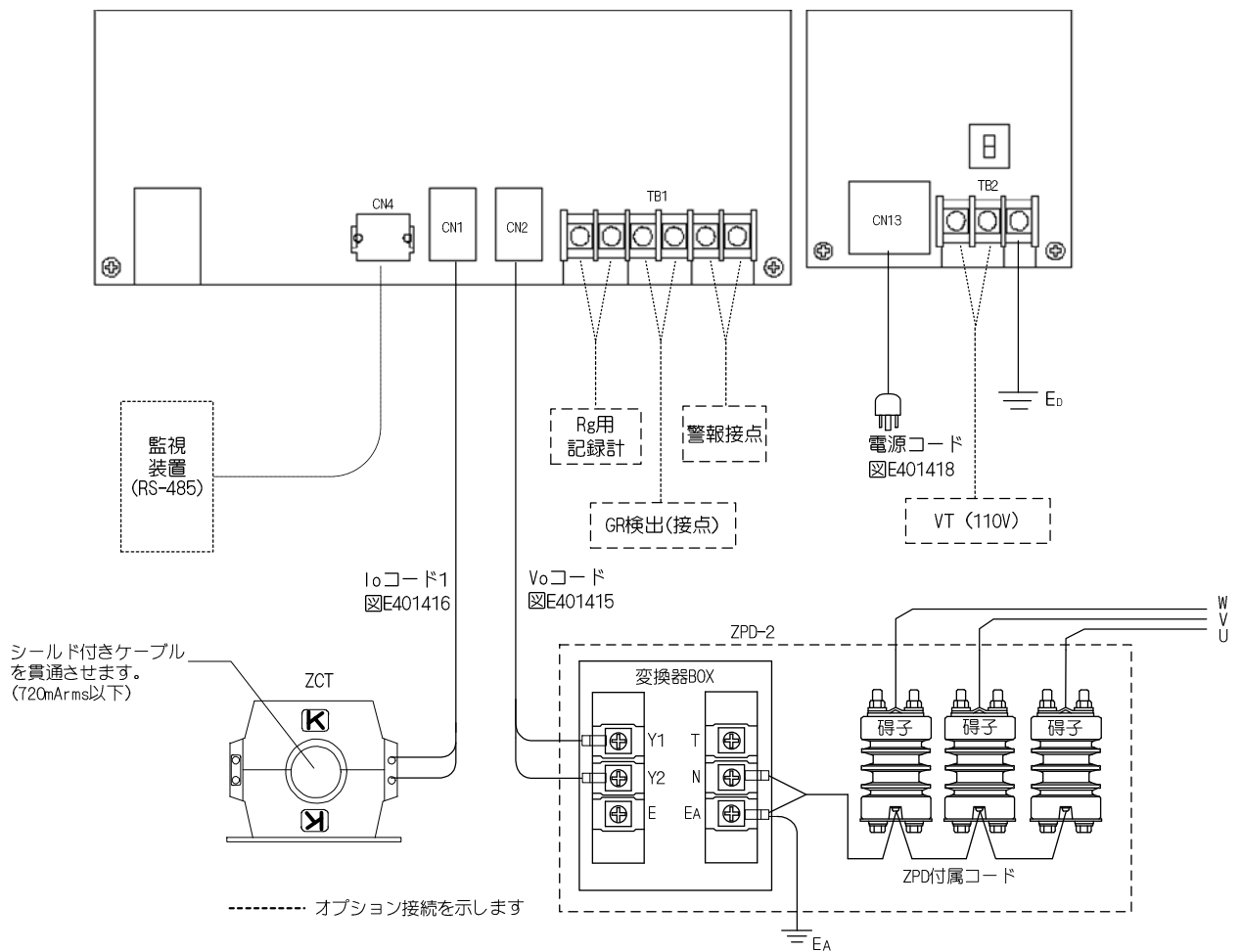
2. 適用機種

- (1) DAS-420MF
- (2) DAS-820MF

3. 設置工事要領手順

3-1 DAS-420MF

(1) 標準接続図(単結図)分割型 ZCT 使用の場合



(2) 設置工事手順

DAS では標準の ZCT としてミドリ安全製の分割型 ZCT を、ZPD には富士電機製コンデンサ型 ZPD を使用します。

名称	型式	仕様
標準分割型 ZCT	NZT-52D	巻数比 1000:1 貫通穴内径 52mm
	NZT-77D	巻数比 1000:1 貫通穴内径 77mm
	NZT-112D	巻数比 1000:1 貫通穴内径 112mm
標準貫通型 ZCT	NZT-40	巻数比 1000:1 貫通穴内径 40mm
	NZT-68	巻数比 1000:1 貫通穴内径 68mm
	NZT-104	巻数比 1000:1 貫通穴内径 104mm
標準 ZPD	ZPD-2	6kV 回路用

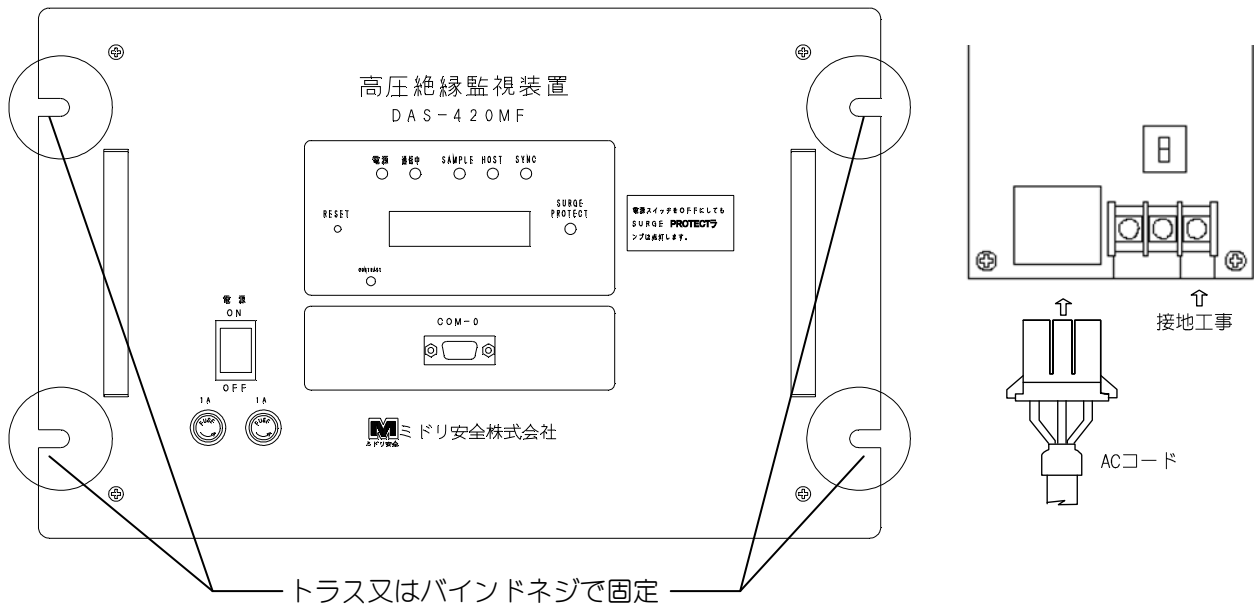
※NZT-77D では 6kV CVT ケーブル : 200sq、6kV CV ケーブル : 250sq まで使用出来ます。

※DAS-410MF/810MF のオプション品 ZPD:VOC-3S(オムロン製)は本装置では使用出来ませんのでご注意ください。

※ZPD として VOC-3S をご使用される場合は、別途販売担当者までご相談下さい。

(3) 本体の取付け

本体フロントパネルを M8 までのトラス又はバインドネジを使用してしっかり固定して下さい。



※必ず本体の FG 端子に D 種接地工事を施して下さい。

※DAS 電源は、監視する受電設備内の電灯変圧器から供給されている系統の電源をご使用下さい。
停電警報や波形収集のタイミング信号に用います。

※DAS の電源容量として 30VA 程度が必要です。

※3P コンセントを用意して下さい。

※VT 端子を用いての電源供給は出来ません。AC 入力をご使用下さい。

※ケーブル類に曲げストレスが加わらないように、床面からの高さを十分確保して下さい。

(4) ZCT の取付け

ZCT を高圧ケーブル(シールド付電力ケーブル)のシールドされている箇所に取付けます。
(シールドのない高圧ケーブルには使用出来ません。)

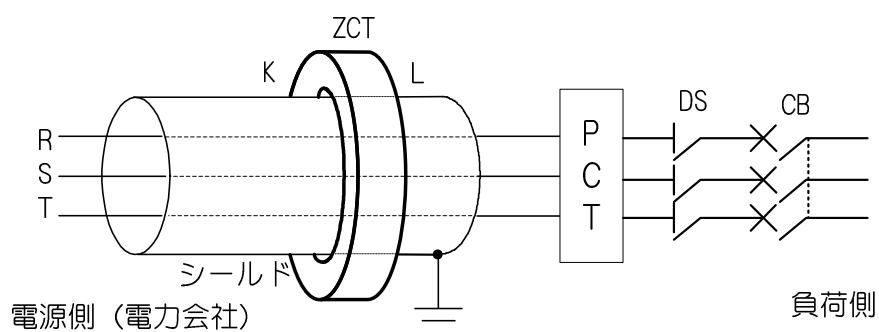
2000 ターン(特注品)の ZCT を使用する時は本体のスイッチ設定を変更する必要があります。詳細は、取扱説明書 2-5 項 動作設定スイッチ又は本書 6 ページをご参照下さい。

※貫通方向に注意して下さい。(電源側が”K”、負荷側が”L”)

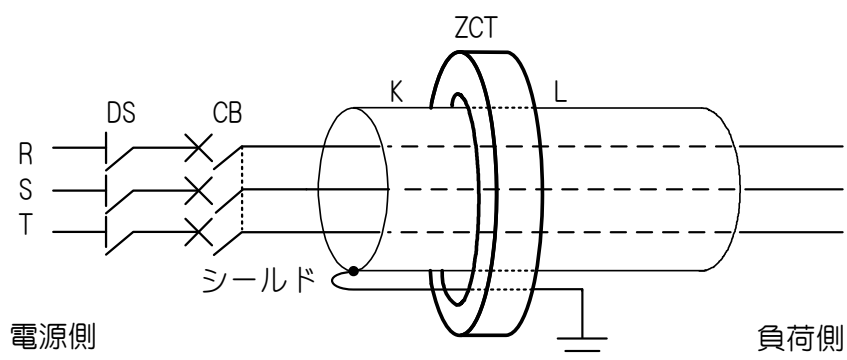
※”k”、”l”端子の一对には、ZCT に付属の短絡バーを取付けます。(5)項を参照下さい。

※シールド接地工事は ZCT の”L”側で行って下さい。

●引込(受電)ケーブルへの取付け方法



●負荷用ケーブルへの取付け方法



※シールド接地工事はシールド線を ZCT の内側を通して”L”側で行って下さい。

(5) I_oコード1とZCTの接続

a. 標準 ZCT (NZT シリーズ) の接続

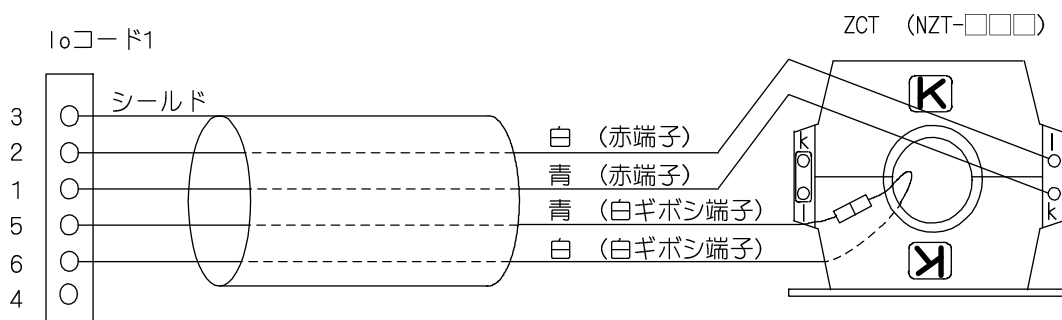
商用電源周波数に関係なく接続は下図の通り行います。I_oコードの標準長は 10m ですが長さを指定して購入することが出来ます。最大 30m までの範囲でご用命下さい。

※ZCT の 2 次側端子(k、l)やコードのシールドは必ず大地より絶縁して下さい。(過電圧保護は、装置内部で行っています)

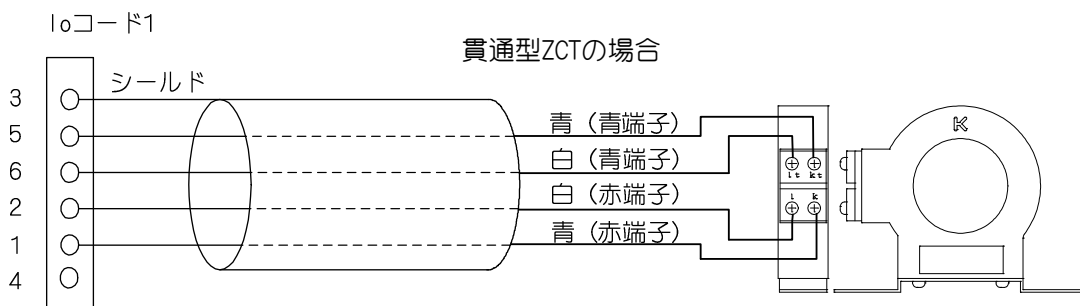
※分割型 ZCT には試験端子(kt、lt)がありませんのでコードの試験線を貫通させて接続します。

※信号線の被覆損傷には充分注意して下さい。

分割型 ZCT の場合



貫通型ZCTの場合



貫通型のZCTのI_oコードは下記より指定してご購入下さい。

名称	型式・仕様	ZCT 型式
NZT-40 用 I _o 検出用コード 1 番号：E401675N*	6P コネクタ付き 4 芯シールドコード ケーブル長：10m フェラライトコア付き 片側 M4 被覆付丸形圧着端子 4 個付き	NZT-40
貫通型 ZCT 用 I _o 検出用コード 1 番号：E401676N*	6P コネクタ付き 4 芯シールドコード ケーブル長：10m フェラライトコア付き 片側 M5 被覆付丸形圧着端子 4 個付き	NZT-68 NZT-104

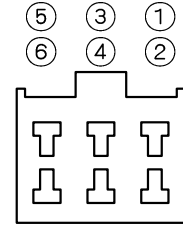
●確認項目

- ①k、l 端子(Pin1、Pin2)が接地されていないこと。(テスター等で確認)
- ②コードシールド線(Pin3)の対接地間抵抗。(テスター等で確認)
- ③コード信号線のピン間抵抗が次表の範囲内であること。(テスター等で確認)
- ④信号線の被覆損傷がないこと。(目視検査)

NZT シリーズの抵抗値

ZCT の種類	抵抗値	
	Pin1-2 間	Pin5-6 間
NZT-52D	約 9Ω	約 1Ω
NZT-77D	約 10Ω	約 1Ω
NZT-112D	約 119Ω	約 1Ω

loコネクタの
ピン番号



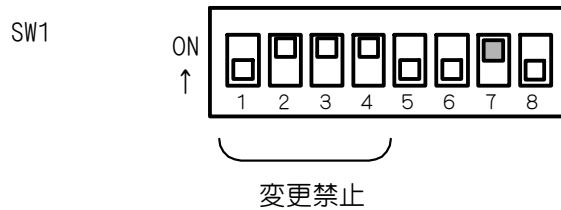
(勘合面視)

b. フレキシブル CT の Moi-10M2 (巻数比 2000 : 1) をご使用の際は、専用ケーブル E401781N*を長さ指定でご購入下さい。

c. 巻数比 2000 ターンの ZCT を使用する時

DAS 本体の基板にある設定スイッチ SW1 (ディップ) の 7 番を ON (上側) に変更します。
ミドリ製 2000 ターンの ZCT は型名の先頭文字が Z で始まります。

例) ZT-104 : 貫通穴内径が 104mm で貫通型を表します。



(6) ZPD の取付け (碍子:ZPD-2C、変換器 BOX:ZPD-2T)

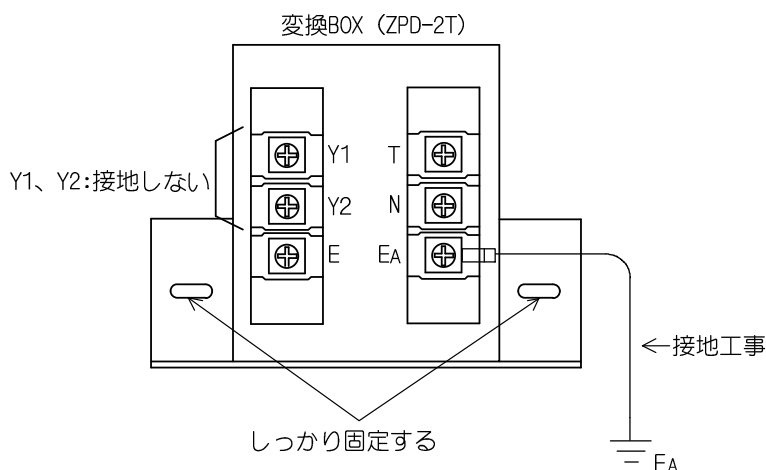
標準 ZPD(富士電機製 ZPD-2)は 6kV 回路用です。系統の電圧が 3kV 又は特高受電のお客さままで接地形計器用変圧器(EVT)をご使用の際は、DAS 本体の設定を変更する必要があります。尚、EVT をご使用の際は ZPD の代わりに 3-3 項(1)をご参照下さい。

※付属の取付金具と六角ボルトを用いて、機器固定を確実に行って下さい。

※変換器BOXの接続端子(EA)にはA種接地工事を施して下さい。

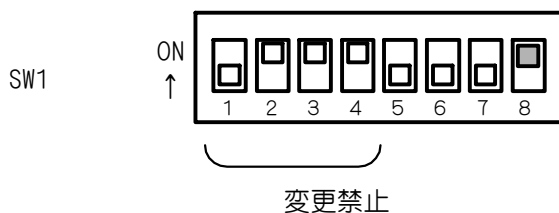
※変換器BOXの2次側端子(Y1、Y2)は、接地しないで下さい。2次側の過電圧保護については装置内部で行っています。

※変換器BOXと碍子の接続は、ZPD-2の取扱説明書をご参照下さい。



●3kV 回路に DAS 用 ZPD を設置して R_g を監視する時

DAS 本体の基板にある設定スイッチ SW1(ディップ)の 8 番を ON(上側)に 変更します。

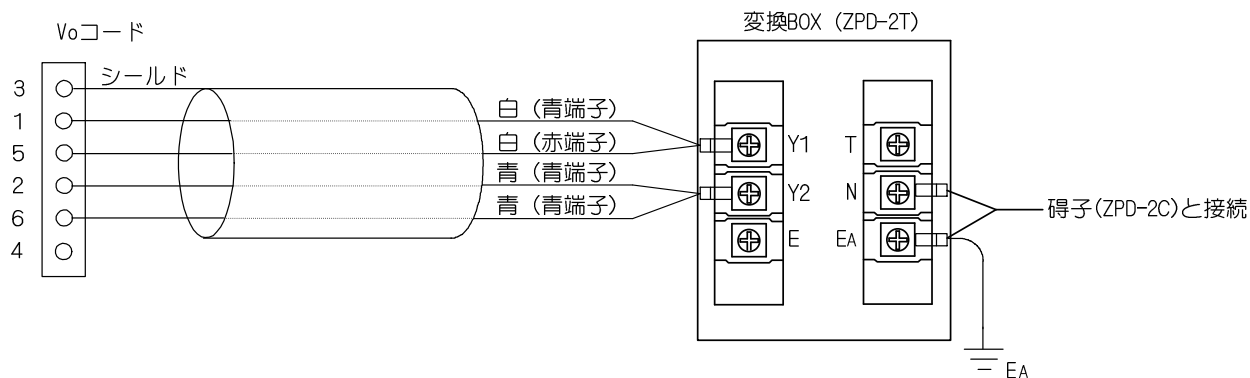


●系統の電圧とスイッチ設定による V_o 電圧の表示(実値との倍率を示します)

系統	3300V				6600V	
	OFF		ON		OFF	
SW1-8 設定	ZPD	EVT	ZPD	EVT	ZPD	EVT
V _o の表示 (倍率)	1	2	2	4	1	1
I _o の表示 (倍率)	1		1		1	

(7) VoコードとZPDの接続

接続は下図の通り行います。商用電源周波数による接続の違いはありません。

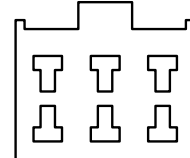


●確認項目

- ①コード信号線 (Pin1、2、5、6) の接地間抵抗をテスター等で確認して ZPD の 2 次側端子が絶縁されていること。(テスター等で確認)
- ②コードシールド線 (Pin3) の対接地間抵抗 (テスター等で確認)
- ③信号線の被覆損傷がないこと。(目視検査)

Voコネクタの
ピン番号

⑤ ③ ①
⑥ ④ ②

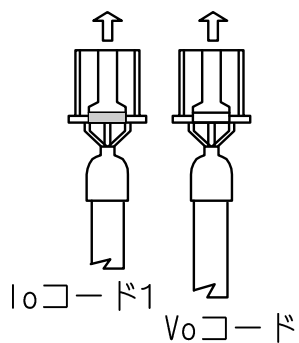
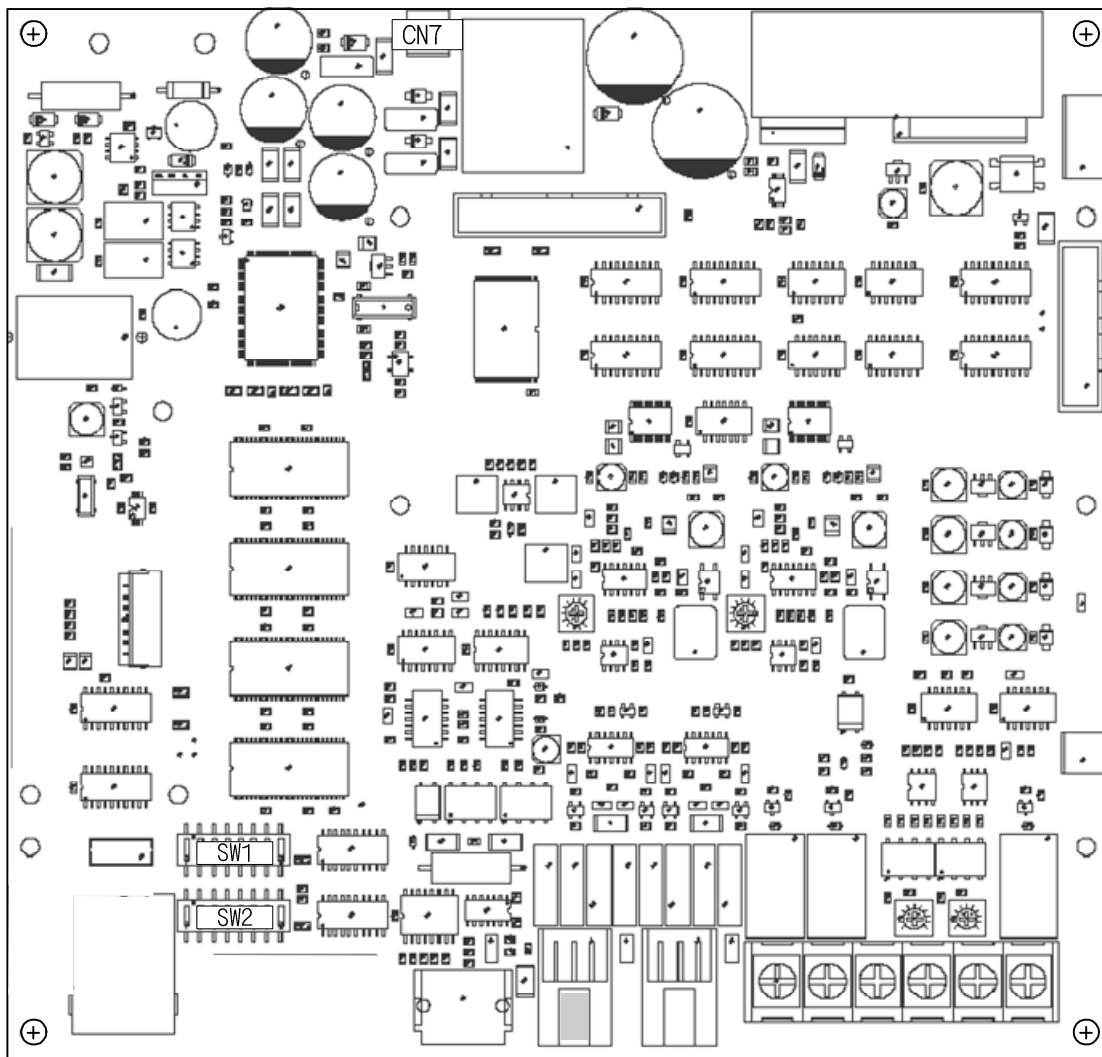


(勘合面視)

(8) Vo・Io コードの接続

ZCT・ZPDの配線が終了したら、DAS本体のコネクタにケーブルを接続します。ケーブルが抜けてこないか、勘合を確認して下さい。

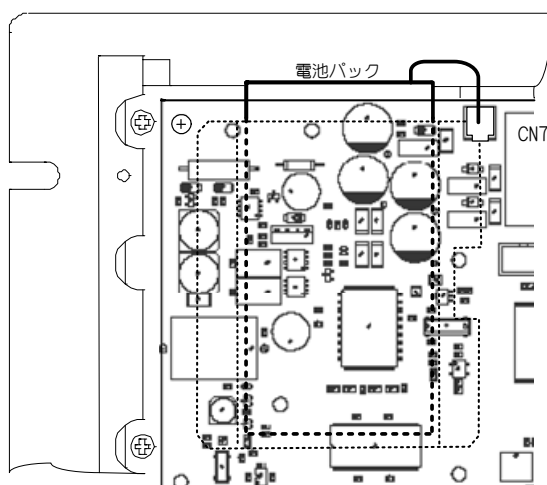
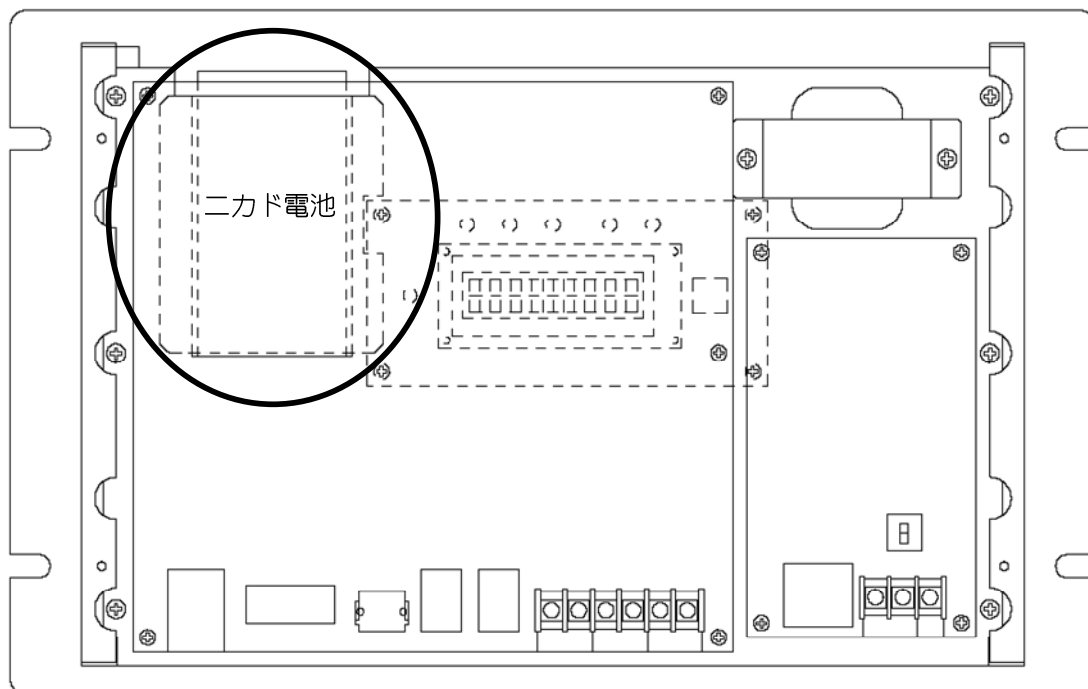
●基板コネクタ位置図



※ケーブルの逆挿しにご注意下さい。Ioコードにはコネクタに黒色のマーキングがあります。

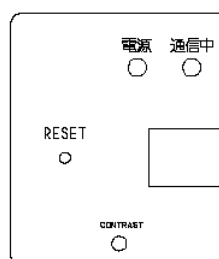
(9) 電池バックアップ

全ての接続と設定が終了したら電池パックの2ピンコネクタを CPU 基板の[CNT7]に接続して下さい。バックアップ機能が有効になります。



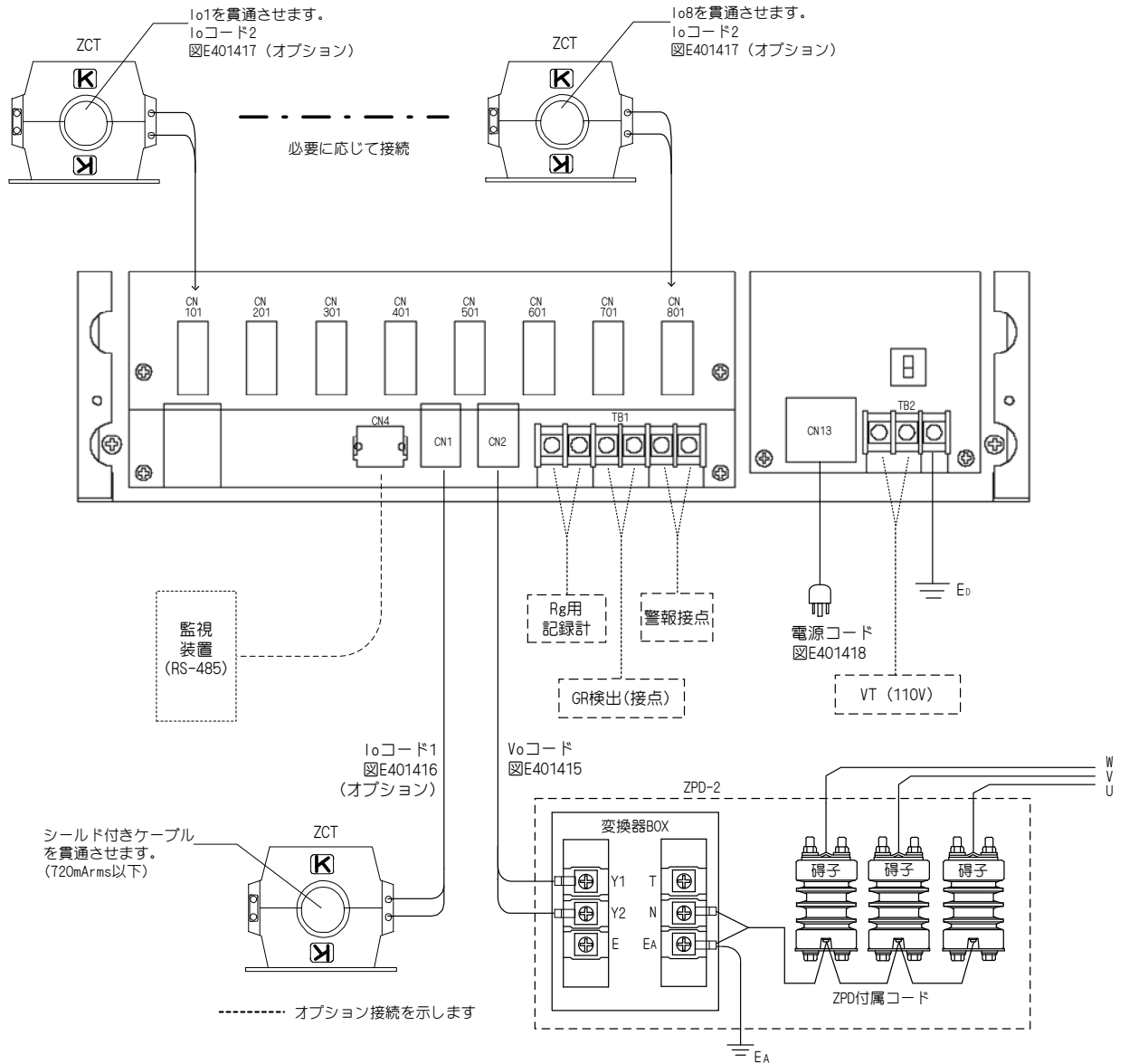
※電源バックアップ動作中に電池パックを外す時はフロントパネルにある[RESET]穴(スイッチ実装)にドライバーや棒を挿入してゆっくり押し、本体の表示が消灯したことを確認してから抜取して下さい。

ゆっくり押し →



(1) 標準接続図(単結図)

分割型 ZCT 使用の場合



※設置工事手順は 3.1 項(2)をご参照下さい。

※DAS 本体の取付けは 3.1 項(3)をご参照下さい。電源容量は 35VA 程度が必要です。

※ZCT の取付けは 3.1 項(4)をご参照下さい。

※メイン用 Io コード 1 の取付けは 3.1 項(5)をご参照下さい。

※ZPD 取付けは 3.1 項(6)をご参照下さい。

※Vo コードと ZPD の接続は 3.1 項(7)をご参照下さい。

※Vo コード・メイン用 Io コードの取付けは 3.1 項(8)をご参照下さい。

※電池バックアップ機能は 3.1 項(9)をご参照下さい。

(2) I_oコード2とZCTの接続

a. 標準ZCT（NZTシリーズ）の接続

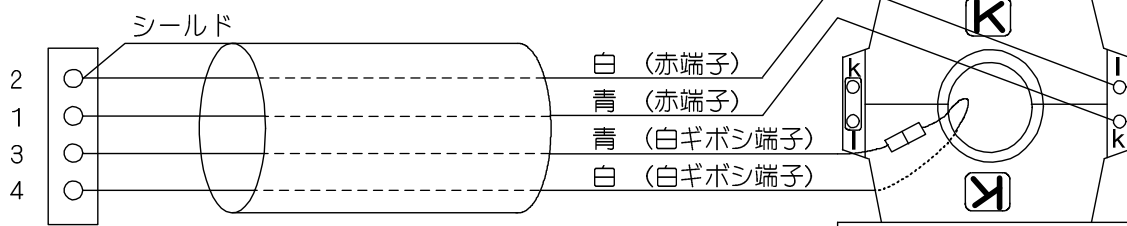
DAS-820MFのI_oコードは取付のZCTにより下記のコードがあります。メイン用I_oコード1の取付けは3.1項(5)をご参照下さい。I_oコードの標準長は10mですが長さを指定して購入することが出来ます。最大30mまでの範囲でご用命下さい。

名称	型式・仕様	ZCT型式
分割型ZCT用I _o 検出用コード1 番号：E401416N*	6Pコネクタ付き4芯シールドコード ケーブル長：10m フェラライトコア付き 片側処理：M4被覆付丸形圧着端子 2個付き ギボシ端子(オス、メス) 各1個付き	NZT-52D NZT-77D NZT-112D
NZT-40用I _o 検出用コード1 番号：E401675N*	6Pコネクタ付き4芯シールドコード ケーブル長：10m フェラライトコア付き 片側M4被覆付丸形圧着端子 4個付き	NZT-40
貫通型ZCT用I _o 検出用コード1 番号：E401676N*	6Pコネクタ付き4芯シールドコード ケーブル長：10m フェラライトコア付き 片側M5被覆付丸形圧着端子 4個付き	NZT-68 NZT-104
分割型ZCT用I _o 検出用コード2 (拡張用) 番号：E401417N*	4Pコネクタ付き4芯シールドコード ケーブル長：10m フェラライトコア付き 片側処理：M4被覆付丸形圧着端子 2個付き ギボシ端子(オス、メス) 各1個付き	NZT-52D NZT-77D NZT-112D
NZT-40用I _o 検出用コード2 (拡張用) 番号：E401677N*	4Pコネクタ付き4芯シールドコード ケーブル長：10m フェラライトコア付き 片側M4被覆付丸形圧着端子 4個付き	NZT-40
貫通型ZCT用I _o 検出用コード2 (拡張用) 番号：E401678N*	4Pコネクタ付き4芯シールドコード ケーブル長：10m フェラライトコア付き 片側M5被覆付丸形圧着端子 4個付き	NZT-68 NZT-104

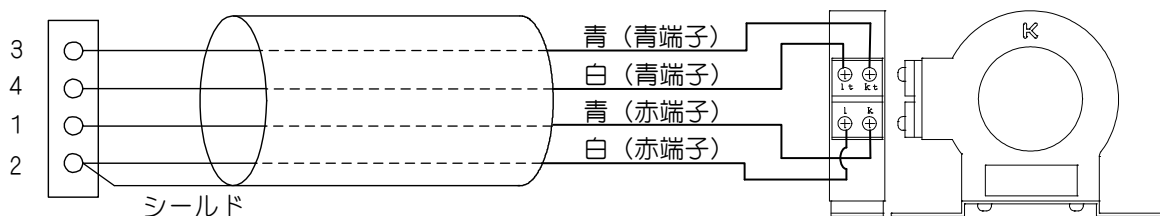
商用電源周波数に関係なく接続は次の図の通り行います。

拡張用I_oコード(I_oコード2)

分割型ZCTの場合



貫通型ZCTの場合



※ZCTの2次側端子(k、l)やコードのシールドは必ず大地より絶縁して下さい。

(過電圧保護は、装置内部で行っています)

※分割型ZCTには試験端子(kt、lt)がありませんのでコードの試験線を貫通させて接続します。

※信号線の被覆損傷には充分注意して下さい。

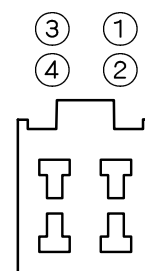
●確認項目

- ①k 端子 (Pin1) が接地されていないこと。 (テスター等で確認)
- ②l 端子及びコードシールド線 (Pin2) が接地されていないこと。 (テスター等で確認)
- ③コード信号線のピン間抵抗が次表の範囲内であること。 (テスター等で確認)
- ④信号線の被覆損傷がないこと。 (目視検査)

NZT シリーズの抵抗値

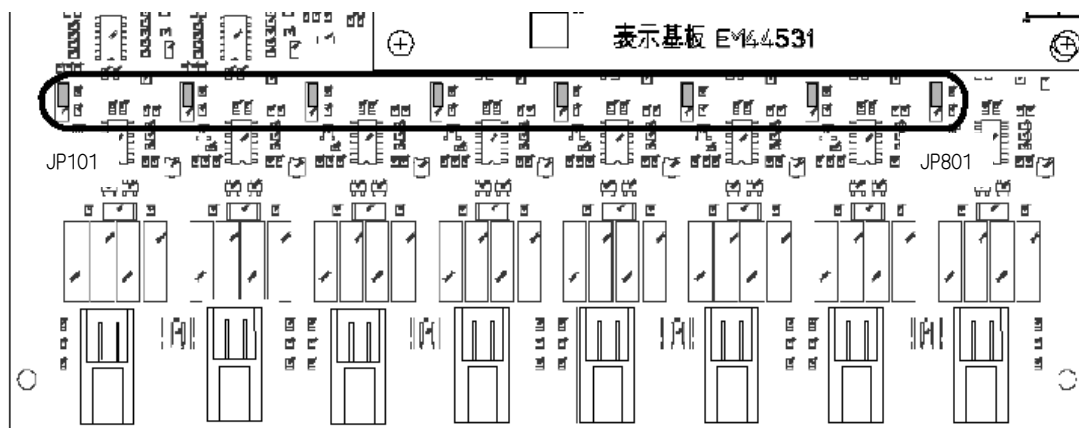
ZCT の種類	抵抗値	
	Pin1-2 間	Pin3-4 間
NZT-52D	約 9Ω	約 1Ω
NZT-77D	約 10Ω	約 1Ω
NZT-112D	約 119Ω	約 1Ω

拡張 I/O コネクタ
のピン番号

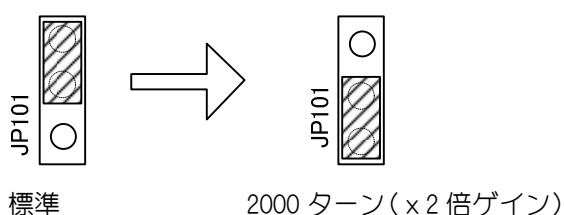


(勘合面視)

- b. フレキシブル CT の Moi-10M2 (巻数比 2000 : 1) をご使用の際は、専用ケーブル E401782N* を長さ指定でご購入下さい。
- c. 巻数比 2000 ターンの ZCT (オプション品) を使用する時
DAS 本体のカバーを外して、基板上にあるショートピンを手前側に変更します。



JP101～JP801 は拡張 I/O 入力の CN101～CN801 の各ゲインを 2 倍に変更できます。使用するチャンネルに接続する ZCT に合わせて設定を変更します。

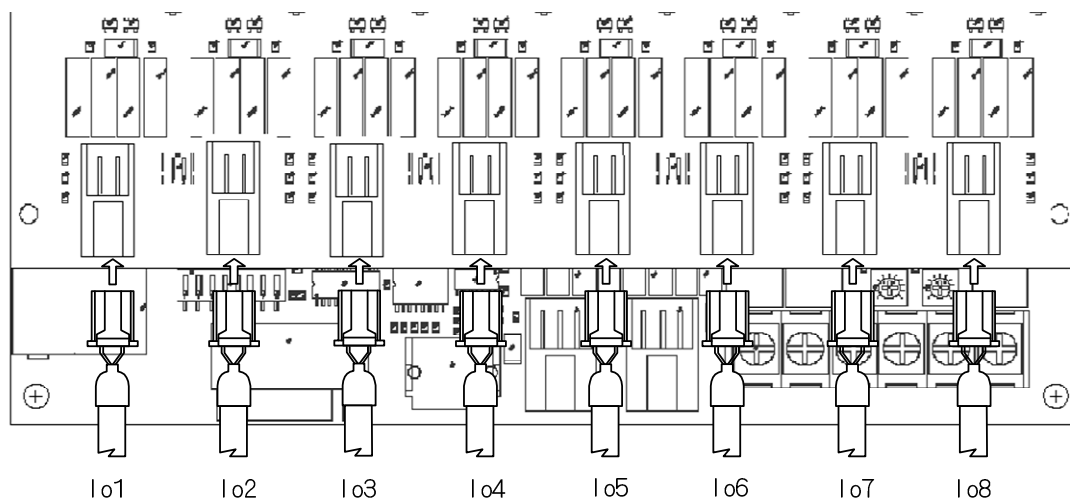


(3) 拡張用 I/O コードの取付け

ZCT・ZPD の配線が終了したら、DAS 本体の上部基板にある 4Pin コネクタにケーブルを接続します。ケーブルが抜けてこないか、勘合を確認して下さい。

下図のように左側から拡張(フィーダ)I/O1、2、・・・8になっています。

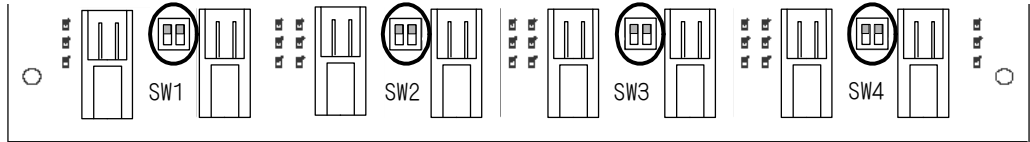
●基板コネクタ位置図



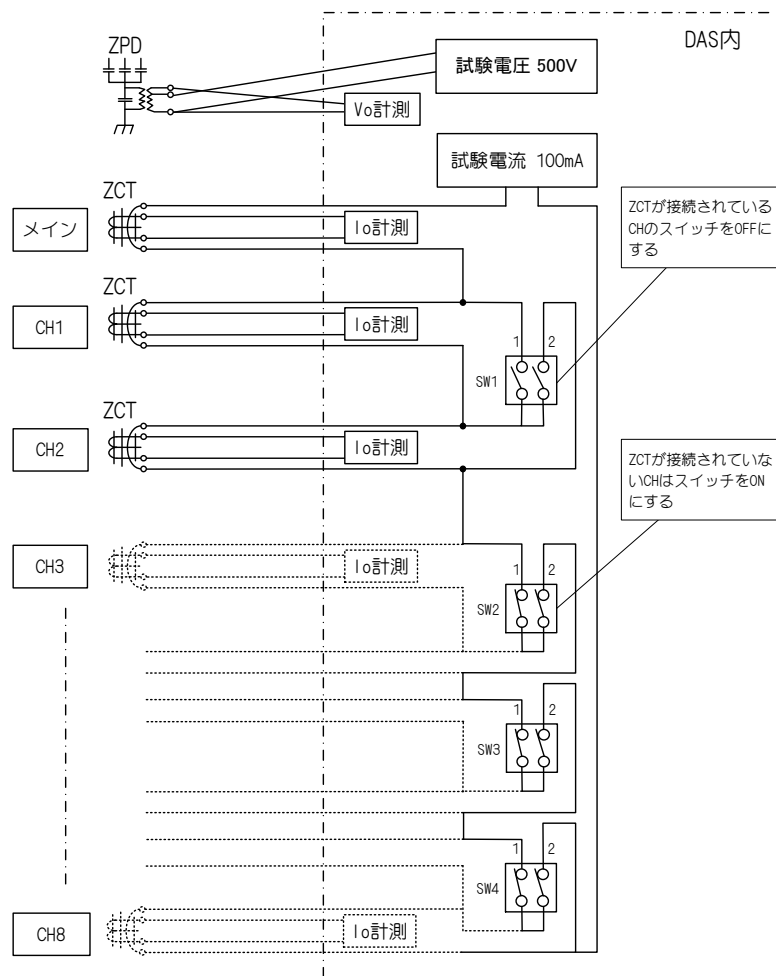
(4) 拡張用 I_o のスイッチ設定

I_o コード 2 を接続したらアナログ基板にあるスライドスイッチ SW1~4 を対応表に合わせて OFF にします。このスイッチは試験電流の通電用です。出荷時は全て ON (未使用の状態) に設定してあります。

スイッチ配置図

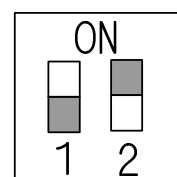


DAS-820の試験回路



スイッチ対応表

名称	SW1		SW2		SW3		SW4	
番号	1	2	1	2	1	2	1	2
I _o コード	1	2	3	4	5	6	7	8
ON	未使用							
OFF	接続							

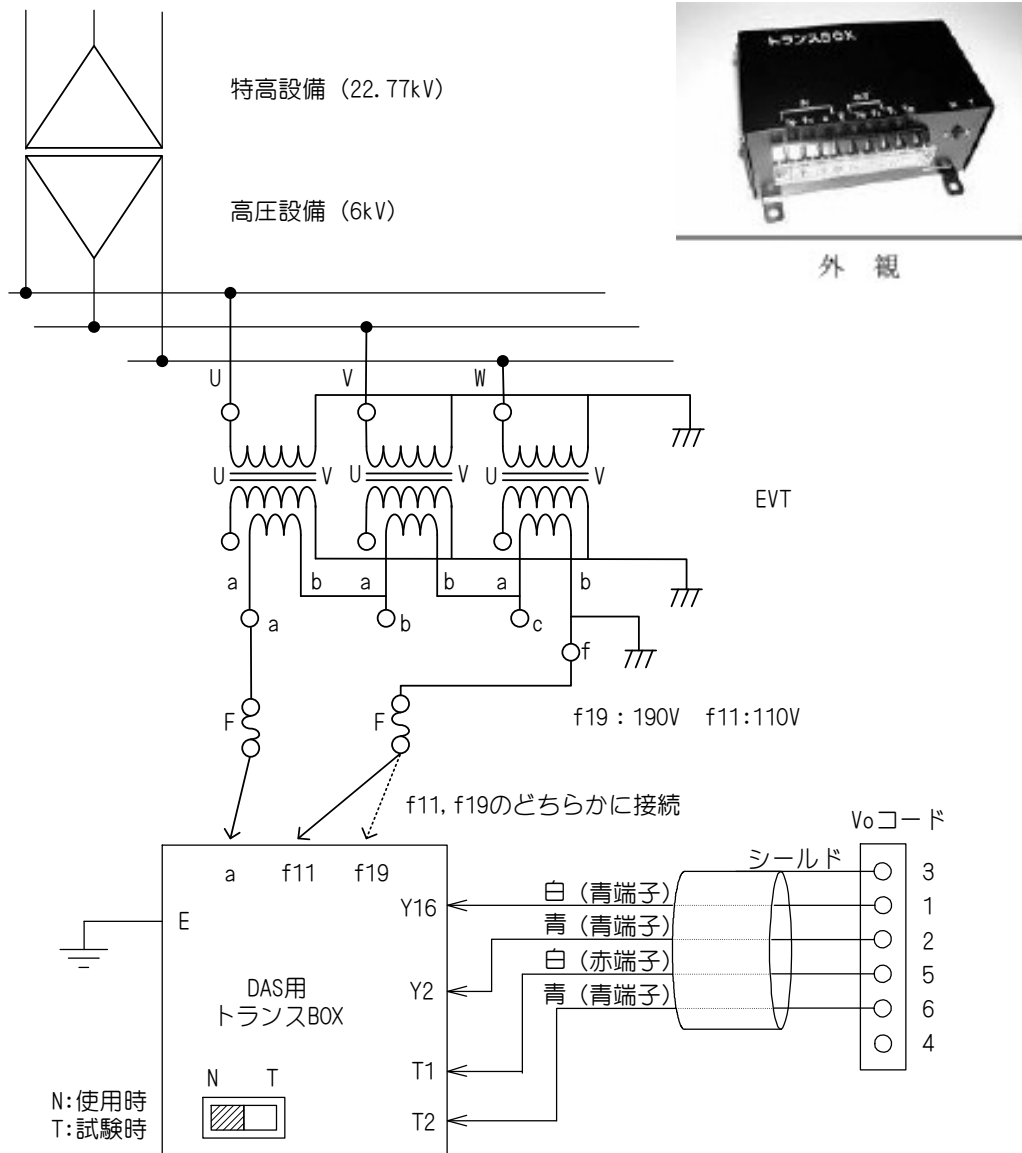


1 : OFF = 接続
2 : ON = 未使用

3-3 オプション検出器の接続

(1) DAS 用トランス BOX (特高受電設備に使用する場合のみ適用)

設置形計器用変圧器 (EVT) が設置されている時には、DAS 用トランス BOX を介して DAS に V_0 信号を入力出来ます。オプション機器間は VVF ケーブル又は VVR ケーブルを用いて接続します。



※DAS 用トランス BOX の[a]端子は GPT 端子台の[a]端子と接続します。

※GPT100%動作時の電圧定格が 110V の時は端子台[f11]に、定格が 190V の時は端子台[f19]に接続します。

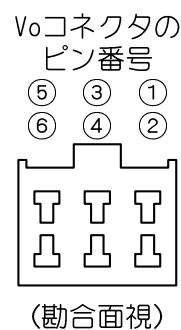
※ V_0 ケーブルは端子と線材の色を確認しながら配線します。

※トランス BOX のスライドスイッチは通常時は [N] 側とし、動作試験時には [T] 側に倒します。試験が終わったら [N] 側に必ず戻して下さい。

※接続に関しては弊社営業担当へお問い合わせ下さい。

●確認項目

- ①コードシールド線(Pin3)の対接地間抵抗。(テスター等で確認)
- ②コード信号線(Pin1、2、5、6)の接地間抵抗。(テスター等で確認)
- ③信号線の被覆損傷がないこと。(目視検査)



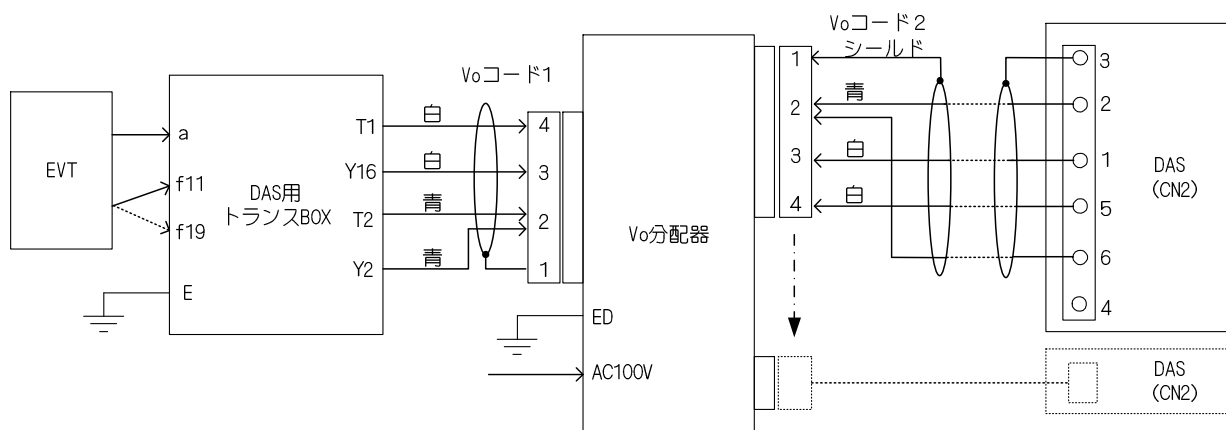
(2)Vo 分配器のご使用法

複数台の DAS に Vo 信号を供給する時は Vo 分配器を用品います。1 台の ZPD 又は DAS 用トランス BOX から Vo 信号を分配出来ますので設置工事が容易になります。

下記のオプションケーブルをご用意下さい。各ケーブルは長さを指定してご用命下さい。

トランス BOX-Vo 分配器間 Vo コード 1 型名 : E401512N*

Vo 分配器-DAS 間 Vo コード 2 型名 : E401513N*



※弊社 Vo コードをご利用でない時は、4 芯シールド(カナレ電気製 L-4E6AT)相当のマイクケーブルをご用意下さい。メタルコネクタは ITT キヤノン製の次のコネクタが勘合します。

Vo コード 1 側 型名 : XLR-4-12C

Vo コード 2 側 型名 : XLR-4-11C

●確認項目

- ①Vo コード 2 シールド線(Pin3)の対接地間抵抗。(テスター等で確認)
- ②Vo コード 2 信号線(Pin1、2、5、6)の接地間抵抗。(テスター等で確認)
- ③信号線の被覆損傷がないこと。(目視検査)

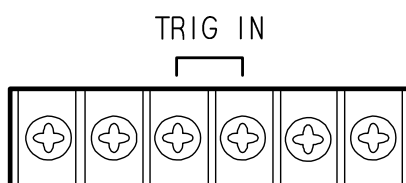
4. オプション機能

DAS 本体の端子台を使用して [警報トリガー] [警報接点出力] [地絡抵抗出力] [VT 同期信号入力] [RS-485 規格の監視装置] の接続が可能です。必要に応じて VVF ケーブルや LAN ケーブルなどを用いて配線して下さい。

4-1 警報トリガー入力

設備の高圧地絡継電装置 (GR・DGR) に警報接点出力がある時には 端子台 TB1 の [TRIG IN] に接続して、トリップ警報を通知します。

※端子台の [TRIG IN] にケーブルを配線して下さい。



※パソコンからのコマンドにより [GRトリップ監視] を有効設定にする必要があります。詳細は [PCソフト取扱説明書] 5-12項に記載するDAS設定値の設定手順をご覧ください。



4-2 警報接点出力

DAS プログラムにより警報と判断した時は外部に接点で通知します。用途に応じて警報器などと接続して下さい。

※GR トリップ等の制御として絶対に使用しないで下さい。

※接点は定格容量以内でご使用下さい。

定格：AC250V/1.5A 又は DC30V/1.5A

※誘導性負荷を制御する場合、以下の事項にご注意下さい。

①DC 回路

DC リレー、DC モーターなどの誘導性負荷を制御する場合、負荷側にダイオードなどのサージノイズ吸収用素子による対処を必ず行って下さい。

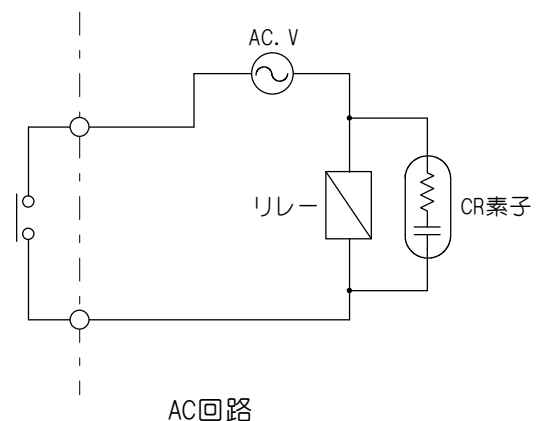
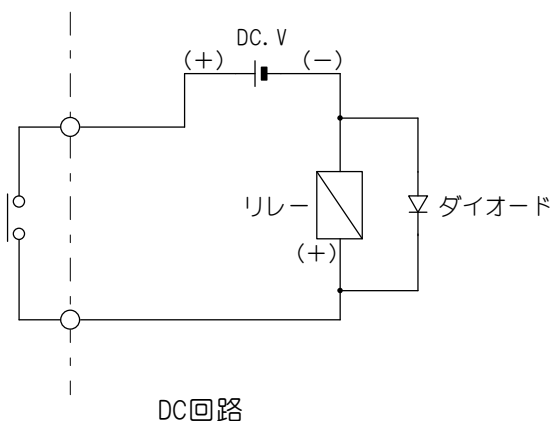
(推奨ダイオード：新電元製 D1NL20U 又は相当品(200V 1A クラス))

②AC 回路

AC リレー、AC モーターなどの誘導性負荷を制御する場合、負荷側に CR 素子、又はサージアブソーバなどのサージノイズ吸収用素子による対処を必ず行って下さい。

(推奨 CR 素子：パナソニック製 スパークキラー・ECQJ0186XB 又は相当品)

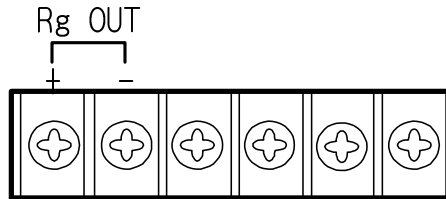
※ 詳細は、負荷装置の取扱説明書等をご参照下さい。



4-3 地絡抵抗 Rg 出力

DAS プログラムにより算出した地絡抵抗値を電圧で外部に出力しています。ミドリ安全製 Rg コード (型名 E401505N*) などをご使用になりパソコンや記録計と接続します。

出力電圧範囲 : 0~10V
Rg 出力レベル感度 : 10V/1MΩ



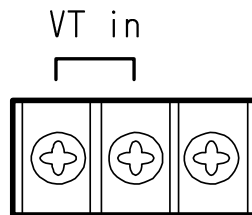
※計算可能な条件が整うまでは結果が出ないことや、誤差が大きくなることがあります。

4-4 同期信号入力

波形収集のタイミング信号を本体 AC 電源から高圧設備の VT 位相に変更する時に使用します。尚、停電時の警報も VT 電圧を監視することになります。

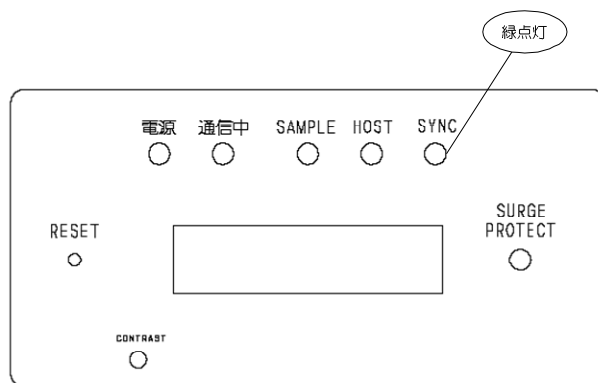
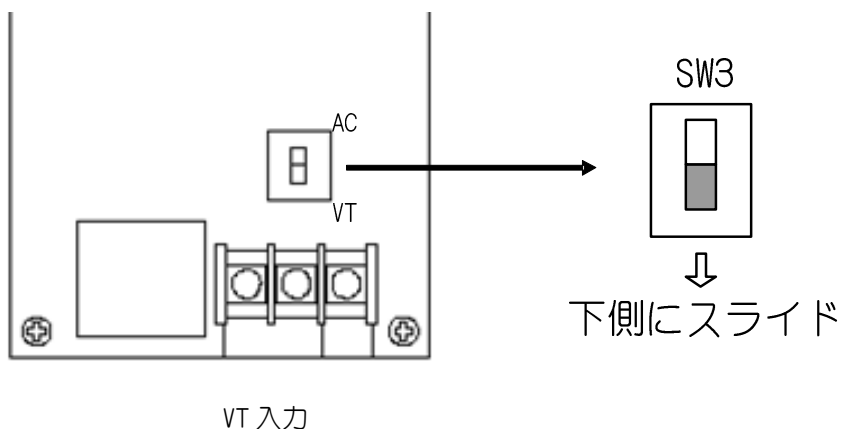
既設 VT の二次側回路 (VTT など) を端子台 TB2 の [VT] 端子へ VVF ケーブルなどで接続します。

※接続した相別・相順は必ず記録しておいて下さい。Vo、Io の測定電路と装置供給電源の電路が違う場合に使用します。



(電源 I / F 基板 EM44521)

※同期信号に VT 電圧を使用する時はスイッチ SW3 を [VT] 側にスライドします。同期信号が入力されると LED 表示器[SYNC]が緑色に点灯します。出荷時は [AC] 側に設定してあります。

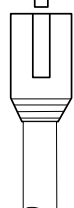
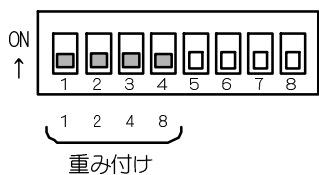
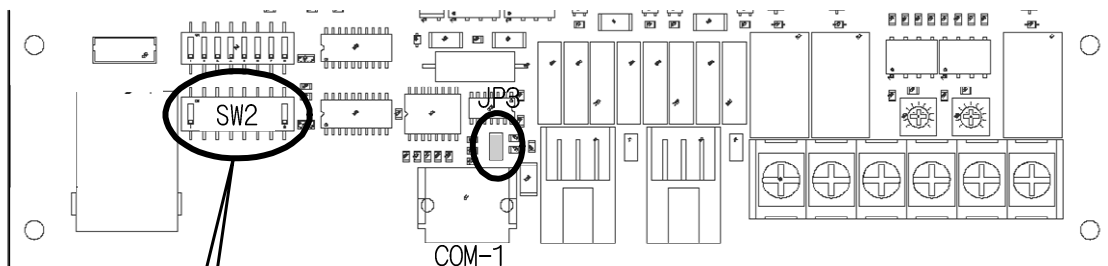


4-5 COM-1 ポート

警報が発生した時警報波形データを転送したり、DAS 整定値の登録などをする目的で RS-485 規格に準拠した監視センターと接続します。CAT5E 対応ストレート LAN ケーブル(8 極)をご使用下さい。

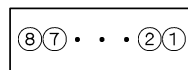
※センター局と本装置が対向している時は CPU 基板 JP3 のショートピンを実装します。その他の機器が接続されている時は、センターから最も遠い機器に終端抵抗を実装して本体の JP3 はオープンにします。

※局番号の初期値は CPU 基板にある SW2 のスイッチ 1、2、3、4(4 ビット)の組合せで決定します。工場出荷時は 15(1+2+4+8)になっています。



LANケーブル

コネクタのピン配置



COM-1ピンの定義

- ① TRX_A : RS-485規格入出力プラス ←
- ② TRX_B : RS-485規格入出力マイナス ←
- ③ TRX_A : ①に接続 ←
- ⑥ TRX_B : ②に接続 ←
- ⑦⑧ : シグナルグランド ←
- ④⑤ : 未使用 ←

SW2	機能	ON	OFF
1	設定 1	0	1
2	設定 2	0	2
3	設定 4	0	4
4	設定 8	0	8
5	未定義		
6	未定義		
7	未定義		
8	未定義		

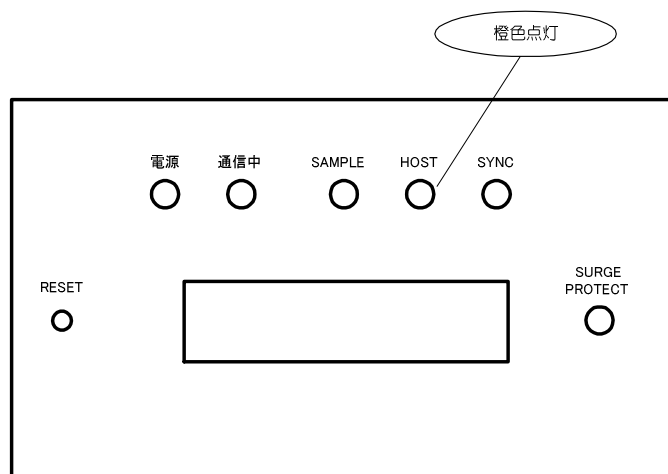
※LAN ケーブルは、温度、踏付け、異常な引っ張りがなく且つノイズ源から遠ざけて下さい。また、強い結束をしないで下さい。

※メタルケーブル(CAT5)は約 100m までが限界とされています。実際には外気温などを考慮すると 80m 以下でご使用下さい。

5. 結線確認試験

DAS の設置工事が完了したら ZPD や ZCT の結線を確認するため試験を行って下さい。試験に際して最初に DAS の電源と VT 端子が接続されている回路のみ復電します。次に、パソコンの RS-232C コネクタと DAS 本体の「COM-0」間に付属する通信ケーブルを接続します。予めインストールしておいた「DAS 波形表示プログラム」を立上げて下さい。通信が可能になると、本体の LED 表示器[HOST]が橙色に点灯します。

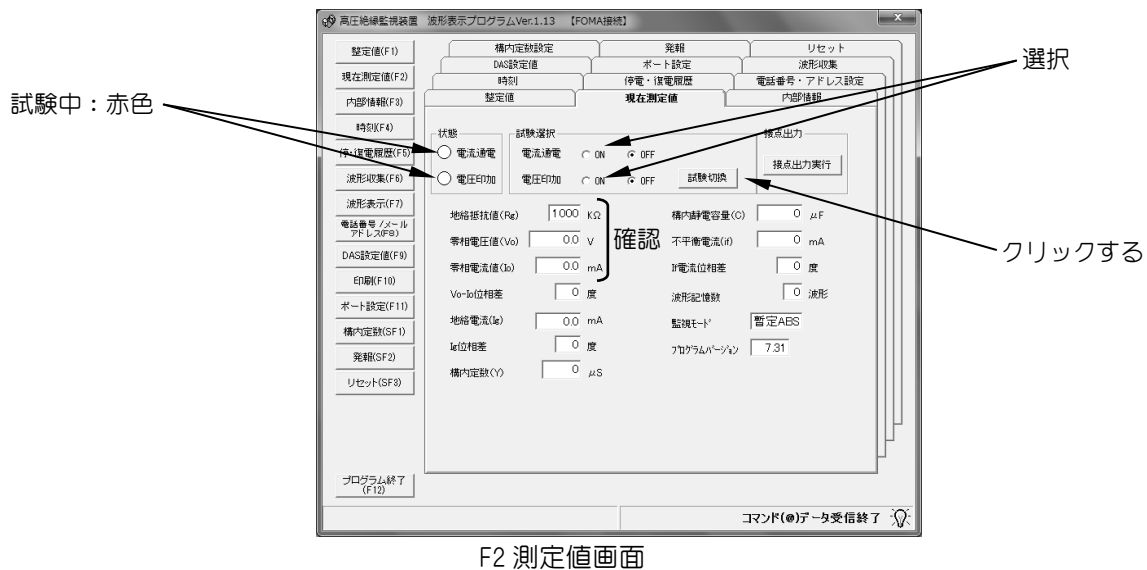
※波形表示プログラムの使用方法は、付属する [PC ソフト取扱説明書] をご参照下さい。



※波形表示プログラムが開かない時は[ポート設定(F11)]画面を開き、ポート番号やボーレートを確認して下さい。詳細は [PC ソフト取扱説明書] をご覧下さい。

5-1 ZPD・ZCT 試験方法

- ①[現在測定値(F2)] 画面を開き[試験選択]にある[電流通電]と[電圧印加]を共に[ON]にします。
- ②[試験切替]をクリックします。[状態]にある○印が赤色に点灯して所定の試験電圧と試験電流が印加されます。
[零相電圧]・[零相電流]・[Vo-Io 位相差]を確認して下さい。結線が正常になされている時、画面表示は次の範囲にあります。
零相電圧 (Vo) : $500 \pm 100V$
零相電流 (Io) : $100 \pm 20mA$
Vo-Io 位相差 : $30 \pm 5^\circ$
- ③試験が終了したら[電流通電]と[電圧印加]を共に[OFF]にして[試験切替]をクリックします。
[状態]にある○印が白色に戻ります。



5-2 警報接点の試験方法

- ① [整定値(F1)] 画面を開き[異常監視設定値]にある[接点動作継続時間]を確認します。初期値は[30]秒になっています。変更するには[30]表示にカーソルを移動させて所望の時間を入力し、[整定値登録]をクリックします。
- ② [現在測定値(F2)] 画面を開き[接点出力実効]をクリックします。リレーが動作して①項で登録した時間だけ ON になります。

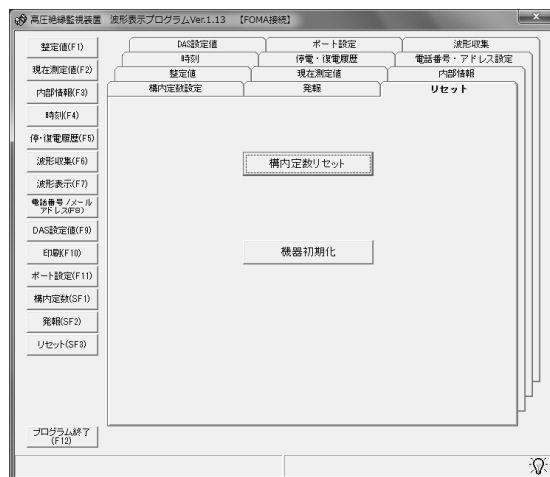


6. 運用時のご注意

6-1 構内定数のリセット

DAS を初めて設置した時、設備状況が変わった時、又は波形表示ソフトから機器初期化を実行した時は必ず構内定数をリセットして下さい。

[リセット(SF3)] 画面を開き[構内定数リセット]をクリックします。



6-2 時刻の確認

DAS を初めて設置した時、又は長時間本体の電源を停止した時は装置内部の時刻を確認又は再設定して下さい。

[時刻(F4)] 画面を開き[設定時刻]を入力し[登録]をクリックします。



6-3 発報試験

無線モジュールが実装されていない DAS では[テスト発報(SF2)]は出来ません。間違っってクリックすると本体の動作が不安定になることがあります。

回復には[リセット(SF3)] 画面を開き[機器初期化]をクリックします。

DAS 本体や設置に関するご質問等は下記までご連絡をお願い致します。

お問合せ先

ミドリ安全株式会社 電気計測事業部 〒143-0025 東京都大田区南馬込2-29-1 3F
電話(03)5742-7211